



りんごの棚

はじめよう！

たな

Apple Shelf Project



●りんごの棚が どんどん広がっています●

「りんごの棚」は、障害のある方などに向けたアクセシブルな資料を集めた棚で、スウェーデンでうまれました。日本では埼玉県の小川町立図書館で初めて作られ、その後各地に広がっています。このパネルでは、各図書館の「りんごの棚」の様子をご紹介します。

令和5年9月に開設してから約1年が経ちました。利用が多く、一部の棚は空になることもあり、利用者のニーズを感じています。蔵書は、新たにLLブック【仕事に行ってください】シリーズなどを加え、約140冊に増えました。リーディングトラッカーの貸出ポスターや、電子書籍サービスのご案内も一緒に置いてPRしています。



小川町立図書館



横浜市神奈川図書館



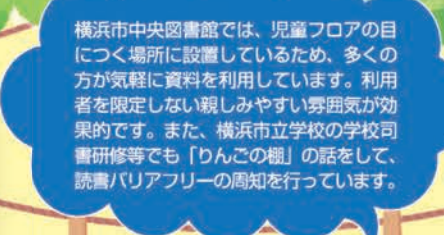
埼玉県立久喜図書館



横浜市山内図書館



渋谷区立中央図書館



横浜市中央図書館



渋谷区立中央図書館



豊島区立中央図書館



横浜市立大道小学校



横浜市立本牧南小学校



横浜市立幸ヶ谷小学校



宝塚市立良元小学校



横浜市立幸ヶ谷小学校



横浜市立和泉小学校



横浜市立西富岡小学校



横浜市立新羽中学校



横浜市立太田小学校



横浜市立日枝小学校



横浜市立太田小学校

誰にも関心を持ってもらえるよう、子ども図書館の入り口付近に「りんごの棚」を設置しています。子どもから大人まで幅広い方にご利用いただいています。

どなたでもご利用いただけます。さわる絵本は特に小さいお子さんに人気があります。障害のあるなしにかかわらず、たくさんの方に利用してほしいです。

山内図書館の「りんごの棚」は令和元年度に設置し、今年4年目となりました。みんなにやさしい本棚として、幅広い方にご利用いただいています。

「シトラスリボンプロジェクト」と「りんごプロジェクト」を合わせて「シトリンプロジェクト」を立ち上げた横浜市内本牧南小学校！そのベースになったりんごの棚は、季節や総合的な学習の時間等に応じて子どもたちの手で進化し続けています。校庭には、りんごの木が記念樹として植えられ収穫もできました。学校図書館を中心に、学校・家庭・地域の輪を大切にしながら、子どもたちの「ふるさとをまち」を思う心を育てています。

児童コーナーの最も目立つ場所にあります。障害のある方だけでなく、子どもや高齢者、海外ルーツの方、読書の夢をかなへる先生にも利用される先生もいらっしゃいます。書架に常備したリーディングトラッカーもよく体験されています。併設のひかり文庫（点字図書館）と連携し、読書バリアフリー環境の充実に努めています。

去年9月に「りんごの棚」を作り、分別別に置いたLLブック・点字絵本・手話の本・凸凹点字器・リーディングトラッカー・外国語絵本などを1か所に集めました。子どもたちは興味津々で、本を読んだり点字体験をしたりしています。

日本語多読の読みもの（購入本と日本語多読の無料の作品を印刷したもの）も並べています。昔話をリライトした作品などもあり、日本語支援が必要な児童だけでなく、特別支援学校の児童、読むのが苦手な児童も楽しんでいます。

幸ヶ谷小の「りんごの棚」は、去年の6年生が、社会科の学習で、読書バリアフリー法や目の不自由な人々にとって通しやすい街づくりについて学んだのがきっかけです。すっかり子どもたちに馴染んで、ここから借りていたり、お友だちと布えほんを楽しんでいる姿をよく見かけます。リーディングトラッカーのワークショップも大人気でした。今年も6年生が、総合的な学習の時間で読書バリアフリーについて学びを深めています。

文字・活字文化推進機構の読書バリアフリー体験セットの貸し出しをきっかけに、「りんごの棚」の常設展示を始めました。リーディングトラッカーの使用やオリエンテーションで紹介したデザイン図書からデジジ教科書へつなぐ支援など、理解と利用が広がりをみせています。「りんごの棚」から始まった読書バリアフリーは、さまざまな形で生徒の読書や学習を支える存在になっていくことを期待しています。

西富岡小の「りんごの棚」は、入り口のドアが入った正面にあります。すっかり図書館の顔となりました。たくさんのお言葉や本との出会い、気づきや発見から人生が楽しく豊かになっていきますように・・・と心をこめて日々「りんごの棚」を整えています。

太田小の「りんごの棚」は、キリンの本棚とその近くにあり、先生が手作りした読みかぐみのりんごは、子どもたちの癒しでもあります。点字つき絵本の「かず」は今日も貸し出し中。中国語の100かいだてシリーズも人気です。